

実施結果報告書

プロジェクト名：「第1回全国宮澤賢治学生大会」

稲垣大助	(教育学部 M1)	下町佳孝	(教育学部 科目履修生)
塩澤茂宗	(工学部 M1)	下家美里	(人文社会学部 M1)
篠原慎平	(工学部 M1)	エフセエワ・	
上野智之	(工学部 M1)	エカテリーナ	(人文社会学部 M1)
村木尚人	(工学部 M1)	橋口もも	(農学部 5年)
庭瀬望	(教育学部 M1)	安藤亮太	(農学部 4年)
金森由利子	(教育学部 M1)	赤石彩織	(教育学部 3年)
池田春香	(教育学部 M1)	市野真奈美	(教育学部 3年)
譚静	(教育学部 M1)	畠山貴憲	(教育学部 3年)
姚曉艷	(教育学部 M1)	飯村裕樹	(教育学部 1年)
畠山慎太郎	(教育学部 M1)	日下紀子	(教育学部 1年)
千葉明日香	(教育学部 M1)		

1、大会概要

■ 目的

- ・本大会は、学生が主体となり、全国に発信していくものにする。
- ・本大会は、大きく「賢治の交流」「学生間の交流」「地域との交流」の3つの交流を達成することを目的とする。・この大会を通して、宮沢賢治に関心を持つ人を増やし、一人でも多くの人と賢治の魅力を語り合う。
- ・学内だけではなく、賢治に興味のある周辺地域の方々を巻き込み、全国も視野に入れた形で大会を進行していくことにより、様々な賢治の姿を共に学び合い、交流し合う。
- ・学内の学生については、後輩として賢治を知り、岩手大学を卒業後、賢治について問われた際に、この大会を通して知ったり学んだりしたことを参考にして説明できるようにする。
- ・賢治研究をしている学生だけではなく、賢治についてあまり知らない学生も含んだ上で学部横断的に大会を行い、この大会自体、またそこで知った賢治の知識や興味、関心を「学生間のコミュニケーション」や「地域との繋がり」の架け橋にする。

■ 大会開催要旨

「宮沢賢治」は、日本では今や知らない人はいないと言ってもいいほど有名であり、海外でもその研究は熱心に行われている。数ある賢治作品に目を向けると、小学校国語科の教材として使われている「やまなし」や、一般的に有名な「雨ニモマケズ」などの作品は、その知名度を形成したものとして考えられるだろう。

その中で、今なぜ賢治なのか。それは、この岩手の地に生まれ、広く全国に知られるまでに至った賢治の持つ存在感の大きさが根底にある。先述したように、「宮沢賢治」という「名」はほとんどの人が知っていると考えてもいい。だが、「宮沢賢治」という「人」について、ある程度説明できるまで知っている人は限られてくるのではないだろうか。具体的には、「宮沢賢治は貧乏であった」と思っている人が少なからずいる、ということがその代表例として挙げられる。（「雨ニモマケズ」などの作品の内容だけで判断しており、実際の賢治の実情をそれと重ね合わせている。）実際は、裕福な家柄であった賢治のイメージが正反対なものとして理解されているということは、宮沢賢治という「人」について考える時間が少なかったことに他ならない。

このことは、特に我々学生にもっともよく当てはまるのではないだろうか。宮沢賢治という名前は知っていても、どんな人なのかはわからない。それを踏まえると、「名」としての理解はあっても、その「人」自身を考える機会は学生生活の中であまりないのではないだろうか。賢治の母校である岩手大学（賢治は、今の岩手大学農学部の前身で

ある盛岡高等農林学校の卒業生である。)の学生についても例外ではない。他県に比べると知名度も理解度も高いかもしれないが、基本的に同じことが言えるのではないだろうか。(他県から来ている学生も多々いることからいえよう。)そこには、「近いからよく知っている」という固定概念は通じないのである。むしろ、その知り様も人それぞれであるともいえるだろう。

では、宮沢賢治について考える機会がないままで本当にいいのだろうか。学生の中で、無造作に考えられつつある賢治をここで考え直す時間があってもいいのではないだろうか。そこで、学生を主体とし、地域をも視野に入れ、全国に向かって発信していくことを目的とした本企画である「全国宮沢賢治学生大会」を考案した。この大会の参加資格に関しては、国際大学スポーツ連盟が主催する総合競技大会；「ユニバーシアード」にある「大学卒業後2年以内」を参考とし、本大会においても「大学を離れてから2年以内」とした。この意図は、学生の年齢的幅を増やすことにより、様々な目線から賢治を見ることができることが第一に挙げられ、また、そのことにより賢治の理解も深まるのではないかと、といったことも挙げられる。

かつてはこの岩手大学の地で学んだ賢治について、学生の手でその理解を深め、考えていこうとするものが本大会の根底に位置する考え方である。学生の見る「宮沢賢治」とはどのようなものか、研究にこだわらず、学部横断的な形で、広い視野に立って賢治を見ていく場を作る。それは、マルチな人間であった賢治を考える上では欠かせないものだろう。また、賢治の生きたこの岩手の地だからこそ、やらねばならないことだと考える。

また、これは、学生が主体となってやるからこそ意味があるのである。その理由としては、学生が主体となることで、賢治を自分たちの力で考えようとする意識が向上してくるから、また、このような学生主体の大会は全国でも例がなく「宮沢賢治学生大会」の魁となる要素を含んでいるから、といったものが挙げられる。

そういった意味も込めて、本企画は学生を主体としたものに価値があり、全国を視野に入れたものであることも含意しているのである。そこで行なう予定である研究交流は、宮沢賢治研究の成果を表に出すことにより、発表者だけではなく、参加者全員が互いに知識を深めることができる。また、パネル・ディスカッションを通じて、学生の中から見る宮沢賢治の構造が見えてくる。それは、同時に大会自体を盛り上げる作用があるといえよう。さらに、賢治研究の第一人者からの講演や実地研修により、現在の宮沢賢治研究の最前線、賢治の痕跡を間近で見ることができると考える。それら一連の流れを通して、賢治を意識的に考え、目的に掲げる「交流」という要素も十分に踏まえたものになるといえるのである。

加えて、本企画を「第1回」としたのは、「これから大会を毎年行い、徐々に知名度を上げ、全国的にも名の通るものにする」と考えているからである。また、いずれは高校生も対象とし、学生の幅も広げていきたい。

2、構成員一覧

教育学部	大学院1年 (教育学研究科)	稲垣 大助 (代表) *
	(教育学研究科)	庭瀬 望
	(教育学研究科)	金森 由利子
	(教育学研究科)	池田 春香
	(教育学研究科)	畠山 慎太郎
	(教育学研究科)	譚 静
	(教育学研究科)	姚 曉艷
	(教育学研究科)	千葉 明日香 *
	(科目履修生)	下町 佳孝 *
	学部3年 (中学校美術科)	赤石 彩織 *
	(中学校美術科)	市野 真奈美 *
	(芸術文化課程)	畠山 貴憲 *
	学部1年 (生涯教育課程)	飯村 裕樹 *
	学部1年 (生涯教育課程)	日下 紀子 *
工学部	大学院1年 (工学研究科)	塩澤 茂宗 *
工学部	大学院1年 (工学研究科)	篠原 慎平 *
工学部	大学院1年 (工学研究科)	上野 智之 *
工学部	大学院1年 (工学研究科)	村木 尚人 *
人文社会学部	大学院1年 (人文社会科学研究科)	下家 美里 *
	大学院1年 (人文社会科学研究科)	エフセエワ・ エカテリーナ *
農学部	学部4年 (農林環境科学科)	安藤 亮太 *
農学部	大学院1年 (獣医学科)	橋口 もも
		(*:中心メンバー)

3、大会開催までの流れ

- | | |
|----|--|
| 4月 | 大会運営会議開始、構成員呼びかけ開始 |
| 5月 | 大会運営会議、実地研修地調査、HP 開設 (公開)、研究発表者・パネリスト呼びかけ開始、実地研修現場下見 |
| 6月 | 大会運営会議、各大学への参加呼びかけ文書発送 (第一報発送)、ポスター・チラシ作成開始、発表者呼びかけ、HP 更新、実地研修現場下見 |
| 7月 | 大会運営会議、大会詳細文書発送 (第二報発送)、ポスター完成、ポスター貼 |

	り出し、チラシ配り、マスコミへの呼びかけ、研究発表者・パネリスト発表者決定、HP更新、実地研修現場下見
8月	大会運営会議、マスコミへの呼びかけ、チラシ配り、HP更新、 <u>「第1回全国宮沢賢治学生大会」実施（8月28日・29日は。28日は学内、29日は学外での実地研修。）</u>
10月	岩手大学「不来方祭」展示、「全国宮澤賢治学生研究会」発足
12月	「Let'sびぎん」中間報告会
2月	「Let'sびぎん」最終報告書作成

4、広報活動

本大会の広報活動は以下で行った。

- ① HPサイトでの呼びかけ。（学生大会用HP、岩手大学HP）
- ② マスコミ関係機関（新聞社・テレビ局）への働きかけ
- ③ ポスター・チラシの貼付・配布（学内・学外）
学内（各学部、図書館）、学外（アイーナ、盛岡駅、川徳、寺、マリオス、イオン、県立図書館、市立図書館、銀行、郵便局、広報誌、公民館、書店、全国33大学）
- ④ 「宮澤賢治研究」関連大学（全33大学）、関係機関への「大会内容」郵送（第一報、第二報）
- ⑤ 前日まで行われている宮澤賢治学会主催の宮澤賢治学会国際大会での呼びかけ
- ⑥ 学内外の講義、公開講座等、各種イベントでの呼びかけ

5、予算使用状況

	区分	数量	単価(円)	金額(円)	備考
必要経費	講演者旅費・謝礼	2		118940	講演者2名分
	発表者旅費・謝礼	5		157800	研究交流＋ パネル発表者 5人分
	ポスター	200	211.25	42250	B2版 3色印刷
	チラシ	3000	1.6666	5000	単色印刷
	通信費	一式		12900	各大学、発表者等への通信
	消耗品	一式		25352	当日使用
	合計			362242	

6、活動内容

■プログラム

第1日 8月28日(月) 受付 9:00~

<午前>

◇ 開会式・オープニング 9:40 ~ 10:00

開会の挨拶(「宮澤賢治センター」代表・望月善次、大会実行委員長・稲垣大助)
お祝いの言葉(岩手大学・平山健一学長)

来賓紹介

賢治の歌(学生有志)

◇ 研究交流 10:00 ~ 12:00

①日本女子大学：深見美希〔大学院博士課程前期1年〕

「賢治作品における演劇〈空間〉に関する一考察—身体性と一体化の現象—」

②岩手大学教育学部：稲垣大助〔大学院修士課程1年〕

「ディベート的見地から見る「ビジテリアン大祭」

③岩手大学人文社会学部：下家美里〔大学院修士課程1年〕

④盛岡大学啄木賢治研究会代表：芳賀洋平〔学部3年〕

「啄木・賢治研究会の現在(いま)と明日(あす)—「どんぐりと山猫」を中心として—」

昼食・休憩 12:00 ~ 13:00

<午後>

◇ 基調講演 13:00 ~ 14:30

○P. A. ジョージ先生(インド・ネール大学準教授) 13:00 ~ 13:30

講演題目：「宮沢賢治の菜食主義とインド菜食主義について」

○原子朗先生(宮沢賢治イーハトーブ館館長) 13:30 ~ 14:30

講演題目：「賢治の孤独」

◇ パネル・ディスカッション 15:00 ~ 17:00

コーディネーター：望月善次(岩手大学教授)

パネリスト：①岩手大学教育学部：飯村裕樹〔学部1年〕

②岩手県立大学ソフトウェア情報学部：佐々木瞬〔学部4年〕

③盛岡大学文学部：濱田奈緒美〔学部3年〕

④高知大学宮沢賢治研究会：松下香奈〔学部3年〕

◇ エンディング 17:00 ~ 17:10

講評(岩手大学・玉真之介副学長)

第1日目終わりの挨拶

◇ 懇親会 18:00 ~ 20:00

第2日 8月29日(火)

◇ 実地研修 9:00 ~ 12:00

◇ 閉会式 12:00 ~ 12:15

講評 (岩手大学・望月善次教授)

閉会の挨拶 (大会実行委員長・稲垣大助)

<第1日目 8月28日(月)>

9:00 9:40 10:00 12:00 13:00 14:30 15:00 17:00 17:10

受付	開会	研究交流	昼食	基調講演	休憩	パネル・ディスカッション	第1日目まとめ
----	----	------	----	------	----	--------------	---------

<第2日目 8月29日(火)>

9:00 12:00 12:05 12:10

実地研修	講評	閉会
------	----	----

~大会1日目~

■ 開会式・オープニング

開会式は宮澤賢治センター・代表である望月善次先生(岩手大学教育学部・教授)の挨拶から始まり、大会実行委員長の稲垣大助(岩手大学大学院1年)の開会宣言を行った後に、岩手大学・学長である平山健一先生からお祝いの言葉をいただいた。

そして、オープニングでは宮澤賢治に関係する歌を岩手大学教育学部音楽科を中心とする学生有志が披露し、大盛況のもと開会した。

■ 研究交流

全3大学(岩手大学・盛岡大学・日本女子大学)から4名が発表した。3名が大学院生で、1名が学部生という中で、学生のする宮澤賢治研究の姿を明らかにすることができた。

4名の発表者とその発表題目は以下ようになる。(発表順に記す。)

○深見 美希 (ふかみ みき)

所属：日本女子大学大学院文学研究科、博士課程前期一年

発表題目：「賢治作品における演劇〈空間〉に関する一考察 ―身体性と一体化の現象―」

○稲垣 大助 (いながき だいすけ)

所属：岩手大学大学院教育学研究科、修士課程1年

発表題目：「ディベート的見地から見る「ビジテリアン大祭」

○下家 美里 (しもいえ みさと)

所属：岩手大学人文社会科学部研究科、修士課程1年

発表題目：「宮澤賢治の童話における父と母の位置づけに関する一考察」

○芳賀 洋平 (はが ようへい)

所属：盛岡大学文学部日本文学科3年

発表題目：「啄木・賢治研究会の現在（いま）と明日（あす）―「どんぐりと山猫」を中心として―」

■ 基調講演

本大会では、宮澤賢治研究をされている先生方を招き、賢治研究の第一線を示していただいた。

1人目は、インド・ネール大学で準教授をされているP.A ジョージ先生に「宮澤賢治の菜食主義とインド菜食主義について」という演題で講演をしていただいた。内容は、宮澤賢治の菜食主義思想について、インド菜食主義を一つの素材として考察する、というものであった。その中で賢治の菜食主義思想が垣間見られる童話作品「ビジテリアン大祭」を「銀河鉄道の夜」に並ぶ名作と評していた。作品のみならず、賢治の思想的な面にも興味のある方には、とても興味深い内容であったらう。

2人目は、早稲田大学名誉教授であり、花巻にある宮澤賢治イーハトーブ館・館長をされている原子朗先生に「賢治の孤独」と題する講演をしていただいた。内容は、文学とはいかなるものか、研究をすとはどのようなものかについて、先生自身の体験を内容に加えながら話して下さった。講演中は、黒板の代わりに、筆と紙を用いて達筆な字で書かれた「疾中」、「業」は今でも目に浮かぶ。賢治研究を行う学生、これから賢治研究を志す学生はもちろんのこと、賢治について全くわからない学生が聞いても本当のためになる講演内容だったといえるだろう。

以下、講演者について、並びに講演題目を記す。

○原子朗 (はら しろう)

所属：宮澤賢治イーハトーブ館（館長）、早稲田大学・名誉教授

講演題目：「賢治の孤独」

プロフィール：長崎生まれ。詩人、大学役員。著書は、詩集『白骨詩集』『風流について』

て』『幽霊たち』『挨拶』『石の賦』（現代詩人賞）ほか多数。研究書に『文体序説』『文体論考』『修辞学の史的研究』『宮澤賢治語彙辞典』（岩手日報賞、宮澤賢治賞）『筆跡の文化史』『新宮澤賢治語彙辞典』など多数。

○プラット・アブラハム・ジョージ

所属：ネール大学・準教授（インド）、国際日本文化研究センター・客員研究員

講演題目：「宮澤賢治の菜食主義とインド菜食主義について」

プロフィール：インド・ニューデリー・ネルー大学語学部日本研究学科準教授。日本の明治文学は専攻で、島崎藤村の初期短編集の研究で博士号を獲得する。およそ十年前から賢治作品の研究を続けている。2002年に客員研究員として岩手大学で一年間滞在して、本格的な賢治研究を行う。「銀河鉄道の夜」のマラヤラム語訳をはじめ、いくつかの賢治童話をマラヤラム語及び英語に翻訳している。2002年に花巻市政府の「第12回宮澤賢治賞奨励賞」を受賞する。現在、前記京都の国際日本文化研究センターの客員研究員で、「宮澤賢治の作品に見られる東洋思想」の研究をしている。

主要著書には、

- ・ Enlightenment of Women and Social Change, Northern Book Centre, New Delhi, 2006
- ・ East Asian Literatures: An Interface with India (ed.), Northern Book Centre, New Delhi, 2006
- ・ Miyazawa Kenji's Ten Japanese Stories for Children (十篇の宮澤賢治童話作品の英訳), Northern Book Centre, New Delhi, 2005
- ・ Akasagangayiloote Oru Theevandiyatra (賢治作品「銀河鉄道の夜」のマラヤラム語訳), Current Books, Kottayam, 2001
- ・ Kuttikalkku Nalu Jappan Kathakal (「よだかの星」「さるのこしかけ」「どんぐりと山猫」及び「注文の多い料理店」のマラヤラム語訳), Current Books, Kottayam, 2001
- ・ Enlightenment of Women and Their Fall (島崎藤村の「旧主人」及び「老嬢」の英訳), Books Plus, New Delhi, 2000 などがある。

■ パネル・ディスカッション

午後の部の後半にパネル・ディスカッションを行った。コーディネーターに岩手大学・望月善次教授を迎え、高知大学をはじめ岩手県内の大学から賢治に関心を寄せる学生が熱く意見を交わした。ディスカッションのテーマは「学生の見る宮澤賢治」。松下さん（高知大学）が「賢治作品の青」への関心を語ると、会場からも賢治の色彩感覚に対する意見が活発に飛び交っていた。その中で、佐々木さん（岩手県立大学）は唯一理系からの登壇者で、文系の色の強いこの大会の中で、佐々木さんを中心とした「賢治プロジェクト」には今後の更なる研究の進展を期待する声が出ていた。また、望月先生の計らいにより、中央大学（東京）、天理大学（奈良）の学生による発言もあった。全体を通して、賢治を媒体として全国の学生が交流すると言う本大会の意義を垣間見た

ような気がする。

以下、コーディネーターならびに発表者について記す。

【コーディネーター】

○望月 善次 (もちづき よしつぐ) (筆名 三木与志夫)

所属：岩手大学・教育学部教授

プロフィール：1942年山梨県生まれ。東京教育大学大学院教育学研究科（修士課程）修了。専門は（石川啄木、宮澤賢治を中心とした）詩歌教育研究並びに教師教育研究。現在岩手大学教育学部教授[教育学部長（1999.3～2003.2）、インド・JUN Jawaharlal Nehru University 客員教授（2005.1～3）]。現在、全国大学国語教育学会理事長、宮澤賢治センター（岩手大学内）代表。[宮澤賢治学会副代表（2000～2001）]等。2005年4月1日から『盛岡タイムス』に賢治の短歌評釈を連載中。

【パネリスト】（50音順）

○飯村 裕樹 (いいむら ひろき)

所属：岩手大学教育学部生涯教育課程1年。

○佐々木 瞬 (ささき しゅん)

所属：岩手県立大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科4年。

○濱田奈緒美 (はまだ なおみ)

所属：盛岡大学文学部日本文学部3年

○松下香奈 (まつした かな)

所属：高知大学・人文学部人間文化学科・3年

■ インディング

大会第1日目、終わりの挨拶を岩手大学副学長である玉真之介先生にいただいた。第1日目全体の総括をして下さり、また、実行委員会の学生に対する労いのお言葉もいただいた。そして、次年度への期待も込め、第1日目の日程を無事終了した。

～大会2日目～

■ 実地研修

岩手大学植物園散策

9:00 ～ 9:40

実行委員（構成員）である安藤亮太〔農学部4年〕と塩澤茂宗〔工学部院1年〕の案内により岩手大学農学部附属農業教育資料館周辺の植物園を散策した。

賢治の歌に詠まれたひのき（下記作品参照）や自啓寮（賢治が高等農林時代に下宿していた）の跡などを見てまわり、その中で、安藤の農学部らしい深い知識での解説はマスコミでも話題になった。

(ひのき、ひのき、まことになれはいきものか われとはふかきえにしあるらし
むかしよりいくたびめぐりあひにけん、ひのきよなれはわれをしらず)
宮澤賢治「ひのきの歌」より

教浄寺

10:00 ~ 10:30

賢治が盛岡高等農林受験のため下宿していた寺。父親に盛岡高等農林受験を認められた賢治はここ教浄寺で猛勉強をし、優秀な成績で見事合格したという。それにあやかり受験期になると多くの受験生が訪れるそうだ。庭には賢治の教浄寺を詠んだ詩碑があり、見物客も多い。

啄木・賢治青春館

10:45 ~ 11:20

「啄木・賢治青春館」担当学芸員の新田さんにより、年譜を中心として賢治の生涯についてお話をいただいた。また、この「啄木・賢治青春館」は明治43年に竣工した旧第九十銀行を保存活用したものである。この地、盛岡で青春時代を過ごした啄木・賢治を感じさせる雰囲気の中で賢治を含む数ある偉人は学びを深めたのだろうと考えさせる内容であった。

岩手公園散策

11:30 ~ 12:00

同実行委員（構成員）の下家美里〔人文社会学部院1年〕による案内で、トーテムポールや賢治の「岩手公園」詩碑、賢治の歌に出てくる蛭石（下記作品参照）のある場所を散策した。賢治が訪れたであろう場所を賢治の描いた情景と共に観る。そんな贅沢な時間を過ごせる場所の一つに「岩手公園」を挙げられ、その周辺をも含めた形で散策することが出来たことは、一つの賢治の姿を知ることにつながったと考える。

公園の円き岩べに蛭石をわれらひろへばぼんやりぬくし

宮澤賢治「(大正四十二年四月)」より

■ 閉会式

全2日間の日程を終え、最後は閉会式を行った。初めに、宮澤賢治センター（岩手大学内）・代表の望月善次先生（岩手大学教育学部・教授）から講評をいただいた。その中では、一連の大会の進行において、学生大会の持ち味である「若々しさ」や「新しさ」を提示できたことを高く評価して下さった。

次に、本大会実行委員長である稲垣大助（岩手大学大学院1年）が次のような主旨の挨拶をし、大会全日程を終了した。

「大会によって開会で挙げた3つの交流（賢治の交流・学生間の交流・地域との交流）」

は達成できた。その中で、大会参加者はもちろんだが、実行委員会のメンバーも含め、大会に携わった方々は、何か一つでも得るものがある大会であったら幸い。課題点は多々あると思うが、それらを改善した形で次年度、「第2回全国宮澤賢治学生大会」を開催したい！」

7、総括

■ 全体について

宮澤賢治生誕110年となる今年。学生の手で、学生が目線から宮澤賢治に迫ろうという試みとして8月28日、29日に「第1回全国宮澤賢治学生大会」を開催した。本大会は、「賢治の交流」、「学生間の交流」、「地域との交流」の3つの交流を目標に掲げて開催したが、一連の大会の流れにおいて、それらはほぼ達成されたのではないかと考える。

当日は、県内外から約120名（マスコミを入れると、130名前後）の方が参加して下さった。一番遠い参加者は、高知大学（高知県）の学生の方で、参加者の地理的範囲さからすると「全国」という名にふさわしい大会であったといえよう。

大会内容についていうと、第1日目は、学生が主体となって発表する「研究交流」、「パネル・ディスカッション」。また、賢治研究の第一線を研究者として名高い、原子朗先生、P.A ジョージ先生に「基調講演」という形で示していただいた。

第2日目は、盛岡市内の賢治にまつわる場所を訪れるという「実地研修」を実施し、約20名の参加者と共に岩手大学・植物園、教浄寺、啄木・賢治青春館、岩手公園内（公園周辺）を徒歩やバスという交通手段で回った。

課題点・改善点が多々あることを考慮すると、本当の意味での成功とは言えないが、実行委員会、大会参加者共に得るものが多い大会であった「第1回大会」は「第1回」としては成功だったのではないかとと思われる。

来年度（2007年10月に予定）は、「第2回全国宮澤賢治学生大会」を開催する予定となっているため、課題点・改善点を踏襲した上で、「第1回」以上の大会を作り上げていきたいと考える。

■ 成果と課題について

<アンケート調査の実施>

大会1日目、参加者には今回大会の成果や今後の課題点を探るため、アンケートに回答していただいた。

●アンケート内容

アンケート項目のたまかな内容は、以下のようなになる。

「第1回 全国宮沢賢治学生大会」に関するアンケート

Q1. あなたはこの大会を何で知りましたか？

(ポスター・チラシ・ホームページ・友達・学校からの招待・指導教官からの告知
・その他 ())

Q2. 本日の大会に参加された感想をお教えてください。

(ア) 本日の大会でもっとも満足度の高かったイベントは何ですか？

(オープニングセレモニー・自由研究発表・講演・パネルディスカッション)

(イ) オープニングセレモニーについて

オープニングセレモニーでもっとも満足度の高かったものは何ですか？

(合唱・演奏)

次回のオープニングセレモニーについて、アイデアがあればお聞かせください。

()

(ウ) 研究交流

(発表者の数、質ともに満足・一つ一つの発表についてもっと詳しく話を聞きたかった・一つ一つの発表は短くてもよいが、もっとたくさんの発表を聞きたかった・その他 (

))

次回の研究交流について、アイデアがあればお聞かせください。

()

(エ) 講演について

次回の講演について、アイデアがあればお聞かせください。

()

(オ) パネル・ディスカッションについて (複数回答可)

(テーマ設定、時間配分等がよく、満足できる議論を聞くことができた・テーマ設定が難しすぎた・議論の内容が難しすぎた・パネリストの人数をもう少し増やして欲しい・パネリストの発表時間が短すぎた・その他

())

次回のパネル・ディスカッションについて、アイデアがあればお聞かせください。

()

(カ) その他、「第1回全国宮沢賢治学生大会」に関する感想がありましたらご記入をお願いします。

()

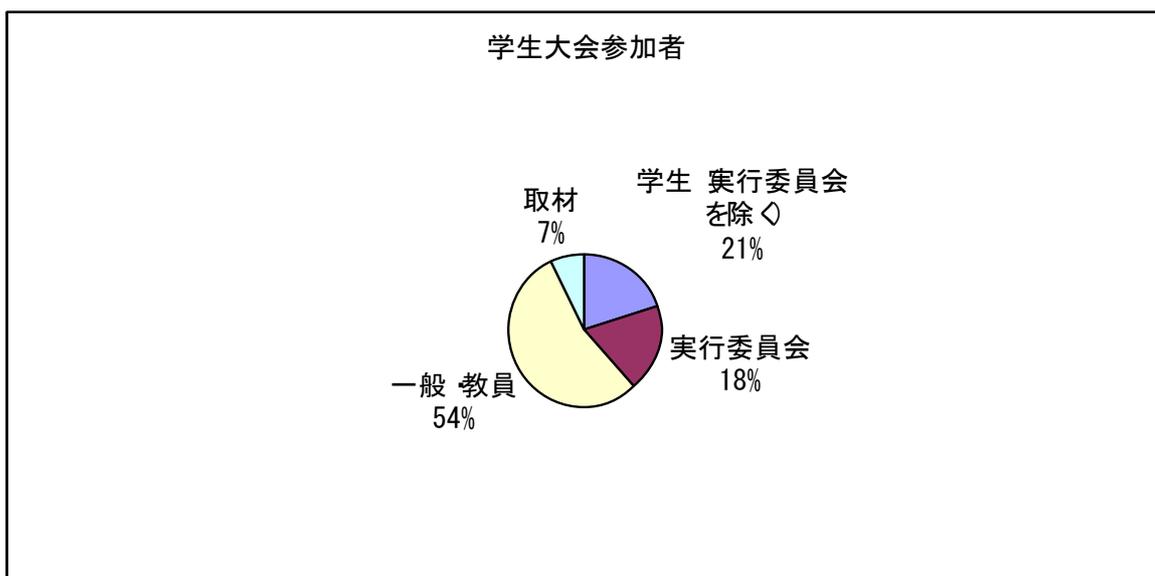
(キ) 次回の大会ではどのような企画・内容を期待されますか？意見・要望・アイデアがありましたらご記入をお願いします。

()

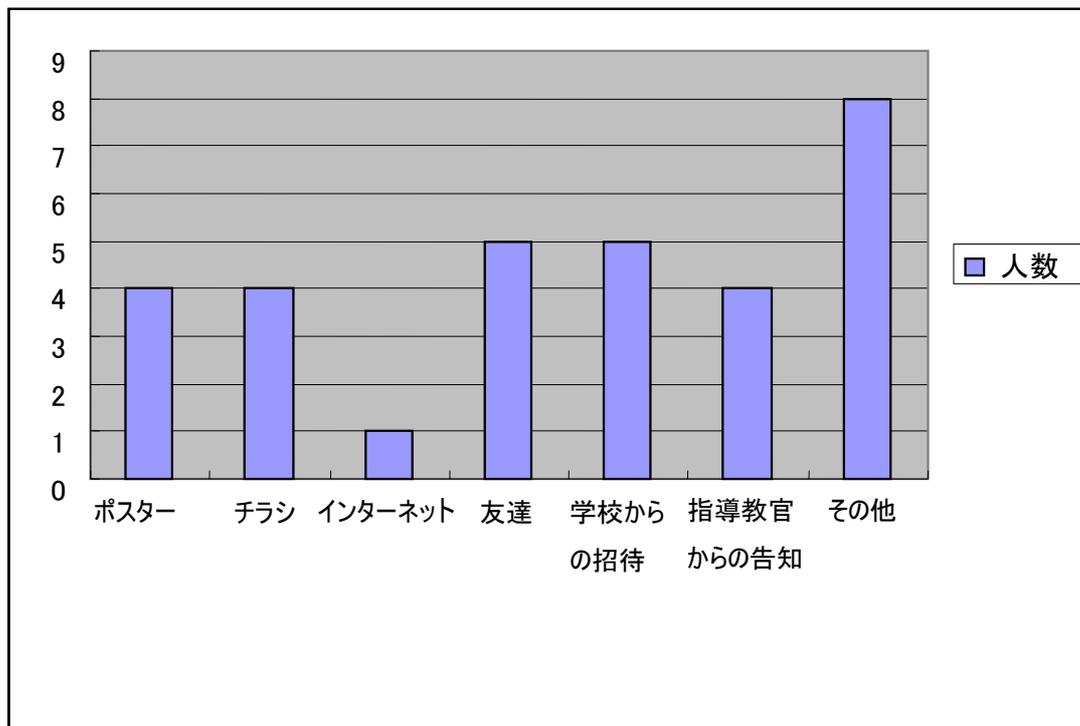
その集計結果を以下に記す。回答者は26名で、回収率22.2%（複数回答可）。紙による選択・記述のアンケートである。

●参加者

117名（大会参加者名簿より作成。）

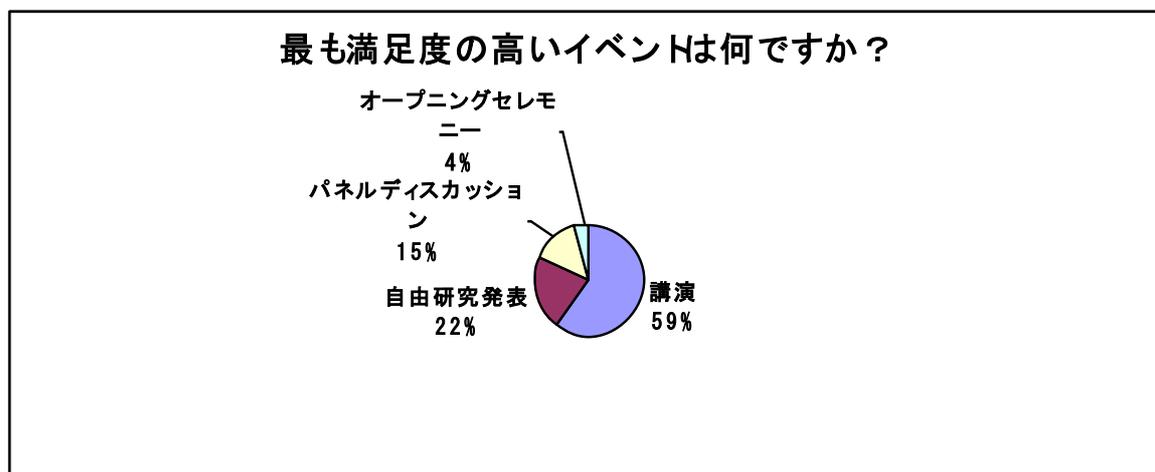


●Q1. この大会を何で知りましたか？（以下複数回答可）



その他；公開講座、新聞、テレビ、mixi等

●Q2.本大会で最も満足度の高かったものはどれですか？



◇オープニングセレモニーについて

(i) オープニングセレモニーで満足度の高かったものはどれですか？

アンケートの不備のため省略。

(ii) 次回オープニングセレモニーについてアイデアがあればお聞かせください。

- ・ 楽器（チェロ・バイオリン）の演奏もあればと思いました。
- ・ 朗読。
- ・ 合唱がとても良かった。
- ・ マニアックな選曲で良かった。
- ・ また合唱をして欲しい。

◇研究交流

(i) 研究交流発表者の数

多い=1 丁度良い=22 少ない=0

(ii) 研究交流の時間

長い=0 丁度良い=25 短い=4

(iii) その他、今回の研究交流について聞かせてください。

- ・ 質疑の時間が短い。学生の意見交換が不十分。
- ・ 県外の新しい学校の参加
- ・ せめて学校のゼミくらいのレベルに下げて欲しい。
- ・ 学生が良く研究していると思いました。これからは楽しみです。
- ・ 研究の内容が多岐に渡っていて素晴らしかった。賢治作品について説明して欲しい所があった。
- ・ もっと多くの大学から参加があると期待していた。宣伝不足ではないのか。
- ・ 最初の話が、マイクのせいか、少し聞こえなかった。

(iv) 次回の研究交流について、アイデアがあればお聞かせください。

- ・ ハンドアウトに話す内容の引用例はできるだけ、十分に過不足なく入れるように準備して欲しい。(配布資料の不備についての指摘)
- ・ もっと視覚・聴覚に訴えるものがあっても良かった。
- ・ 制限時間を少し緩めにしてはどうか。ベルは不要ではないか。
- ・ レベルが高く立派だった。最初の方の人の発表はもっとしっかり聞きたかった。

◇講演について

(i) 今回の講演について感想をお聞かせください。

- ・ とてもおもしろかった。次にも聞きたい。
- ・ 時間が不足。休憩が長すぎた。
- ・ 短い。
- ・ 「賢治を孤独にするな」というたとえに強く心をひかれ、賢治作品を読むヒントになりました。
- ・ インドのベジタリアンの話は興味深かった。
- ・ ジョージ氏：内容の乏しい話、原氏：偉そう過ぎる。賢治とはずいぶん違う。

- ・ 原先生の迫力ある講演は感動でした。
- ・ 原先生の話は少し難しかった。
- ・ 雨ニモマケズは詩ではなく、手帳に願望を書いたとの事、それでも有名になる。
- ・ 楽しかったです。素晴らしかったです。
- ・ 両先生の講演、とても良いお話でした。
- ・ 崇拜しないで、一緒にいる賢治ということがとても印象に残りました。
- ・ 原先生の力強いお話、戦争体験者としての賢治の見方、政治、憲法の話も感銘。私はまだまだ手元に賢治がないことを痛感。
- ・ 先生方は素晴らしかった。
- ・ とても良かった。
- ・ 原先生の話をもっと聞きたかった。
- ・ 気持ちが高まりました。

(ii) 次回の講演についてアイデアがあればお聞かせください。

- ・ 宮澤和樹氏の賢治についての話。
- ・ 日本人+外国人の講演は良い企画なので続けてください。
- ・ 現代賢治論を研究している人の話。
- ・ 原先生はもう少し時間が長くても良いのではないか。
- ・ 原子朗氏の言いたいことが引き続きお聞きしたいと思います。ご高齢なので今うちに存分お聞きしたい。

◇パネル・ディスカッションについて

(i) テーマ設定

満足=9 普通=9 不満=2

(ii) 時間配分

長い=1 普通=15 短い=4

(iii) 議論内容

満足=8 普通=10 難しい=0

(iv) パネリストの数

満足=0 丁度良い=20 短い=1

(v) 次回のパネル・ディスカッションについて、アイデアがあればお聞かせ下さい。

- ・ パネリスト同士もっと交流があったほうが良かったのではないか。
- ・ 現代学生にとって賢治とは誰か。
- ・ 作品（あるいはテーマ）を設けて、展開するのも1つの方法である。
- ・ 間の休み時間が長かった。トイレタイムくらいで会場の発言の時間がもっとあれば良かった。
- ・ ディベートのように「～についてどう思うか」とテーマを絞っていったほうが会場と学生同士のやり取りが活発になるように思う。今回のものでは研究発表とあまり

変わらないのではないかと。

●Q3.その他、今回の全国宮澤賢治学生大会に関する感想がありましたら、ご記入下さい。

- ・ 参加大学を多くして欲しい。
- ・ とても良かったと思う。賢治に関することはあまり知らないが、これからもっと文学を読んで理解するよう頑張りたい。
- ・ 学生の運営努力に敬意。学生の動員が少しすくないのでは？しかし、継続が大事。
- ・ 第1回大会ということで準備を含めて大変だったと思います。落ち着いた学生らしい大会だったと思います。
- ・ 会場の雰囲気はぴったりで良い。様々な大学の学生が意見を交える場が素晴らしい。
- ・ 現代の学生の感性を知ることができました。
- ・ 終了をもう少し早めて欲しい。
- ・ とても実りのある話ばかりで、講演者・パネリストの発表の時間がもっと欲しいと思いました。
- ・ 「学生大会」という名称はふさわしくない。「～学生集会」などどうだろうか。
- ・ 学生主体のこのような大会は素晴らしい。若い人たちの頑張りに期待します。
- ・ 学生の参加を期待します。発表した学生の研究に期待し、広まっていくことを望みます。
- ・ 1人でも多くの学生に、特に岩手大学の学生に広まってほしいです。
- ・ 大変お疲れ様でした。友人も行きたいといっていました、日程が合わず参加できませんでした。広報をもう少しはやめてはいかがですか。
- ・ 第1回とすればよくできた方だと思う。
- ・ 学生さんたちよく頑張っていました。
- ・ 第3回までには本当に学生主導の大会にしてください。
- ・

●Q4.次回大会ではどのような企画・内容を期待されますか？意見・要望・アイデアがありましたらお願いします。

- ・ 色々なレベルの文献紹介など。何かの形でできることがあれば。
- ・ 県外の参加が不明であるが、今回の成果をPRして、来年は更に盛り上げるように期待したい。
- ・ 作品を絞った大会も面白いように思う。
- ・ ①岩手大学にとって賢治とは何か。②戦争の反省と現状賢治研究の意義
- ・ 次回は更に準備期間があるので、さらに素敵なことが企画されることを期待します。
- ・ 来年に期待します。4時ごろ終わるようにして欲しい。
- ・ 資料がばらばらすぎる。
- ・ 教科書教材になっている賢治作品にとってその教育的価値・意義について。

- ・ 作品のテーマを決めて討論する。
- ・ NHKの放送で、開始時間や一般参加ができることをはっきり言って欲しかった。

<アンケートから見る大会の成果・課題>

成果

- ・ 学生主体に対する評価を受けたこと。
- ・ 学生がどのような賢治研究をしているのか、また学生は賢治をどう見ているのか幅広く知ってもらえたこと。
- ・ 講演・研究交流が好評だったこと。

課題

- ・ 大会の時間配分。
- ・ 更に数多くの大学の参加。
- ・ 資料の不備。
- ・ 広報を開始する時期の遅さ。
- ・ 広報不足。

<全体から見る成果と課題>

今回の「第1回」大会を開催することで、得るものは大きかったと考える。日常生活の中で、経験することの困難な大イベントを曲がりなりにも成し遂げた、という事実こそが実行委員全体の成果につながるだろう。だが、そこから前進せずには更なる躍進は期待されない。以下、今回の大会全体を踏まえての成果と課題について見ていくことで、今後の展望を探っていきたいと考える。

■ 成果

①学生主導での第1回大会の構築 ～「無」から「有」へ～

本大会は「第1回」大会である。また、本大会を実行したことは、換言すれば「矢は放たれた」のである。大会運営を通して、その「1」という数字には、「創造」という意味が内包しているのではないかと感じられた。

初めての試み（創造）には苦難がつきものである。特に、これまで何らかの形で運営に携った経験がある者が、メンバーにいるのといないのとではその質に雲泥の差が生じるだろう。今回は、そういった経験者がいなかったこともあり、様々な面で手順の違いや知識不足が表面化したように思われる。しかし、このような一連の「違い」や「不足」そのものが、【間違えたことから学ぶ】、つまりは「無」から「有」へ続く一つの契機を与えてくれたと捉える。

②広報活動

広く地域の方々、全国の学生等に発信していくことを目指し、今回の大会は広報活動

に力を入れた。ただ、その不十分さなど課題点はあるため、そのことについては後に記す。

大会開催前に、NHKや新聞等で告知をしていただいたこともあり、当日は、テレビ局、新聞社など多数のマスコミが来てくださり、当日のニュースや次の日の記事などで取り上げてくださった。これは、事前に、新聞社への通知やテレビ局巡り等を行った成果といえよう。それらを媒介として、本大会を広く全国に知っていただくことができたのではないかと考える。

■ 課題

① 広報活動

広報活動の成果に関しては前述した。その中で、課題はその時期的・範囲的問題であると考えられる。学生大会開催前は、準備に追われ、広報に関する十分な構想を得るには至らなかった。そのため、結果的に広報時期を遅らせてしまう、かつ広報範囲を矮小化してしまうことになり、大会開催そのものを知る人を少なくしてしまっただろう。結果論から見ると、マスコミ等に取り上げていただいたこともあり、発信することはできたといえる。だが、その大会自体の事前広報を徹底することで大会の参加者も増え、その質もよりよくなるのではないかと考える。今後としては、「広報範囲を広げること」、「広報手段を工夫すること」、「(発表者依頼も含めて) 広報時期を早めること」を克服していきたい。

② 学生の参加

学生大会には、学生参加が絶対的に必要となる。今回は、その学生参加が少なかったといえよう。これは、学生大会を学生の手で開催したことは成果として挙げられるが、その質について見ると課題点が存在する、ということが浮き彫りにしている。これらを改善し、「参加する学生を増やすこと」(横の広がり)だけでなく、高校生等、大学以外の学生の参加をも視野に入れ「学生の幅を増やす」(縦の広がり)を同時に目指していきたいと考える。

■ まとめ

これからの面では、学生大会という本体を創り構成していく上での土台として、このような成果・課題を数多く積み重ねながら、経験豊富な、歴史に残る学生組織の創造を目指すことが重要である。

後は、課題を随時克服していき、よりよい形で段階を踏みながら次回、その次へと継続させていく。今後の学生大会の運営はそのことに尽きるだろう。前術した広報不足、学生の幅を広げること、学生参加者の数を増やすこと、広汎な形で全国の学生を募ること…等、課題は多々あるが、それらをそのまま踏襲するのではなく、変革し新たな創造の構築を図ることを今後の大きな目標として位置づけ、次回の第2回大会につなげていき

たい。

最後に、この大会を契機として、10月21日、「全国宮澤賢治学生研究会」を発足した。本研究会は、学生大会開催時に掲げた「賢治の交流」「学生間の交流」等の交流を中心に据え、共に学び、共に活動することで学生を見る宮澤賢治、学生が研究する宮澤賢治の質を高めていき、それを全国規模で展開させていくことを目的としている。会員は岩手大学のみならず、岩手県立大学、盛岡大学、日本女子大学…等の大学生、また高校生にも興味を持っていただいていた入会している現状である。その数は、約100名にまで膨れ上がり、今も増え続けている。

学生大会は、このような形でも反映され、浸透していることを踏襲し、学生と賢治の距離を今後少しでも近づくことを目指して活動していきたいと考える。

8、謝辞

今回の学生大会を無事開催することができたのは、協力して下さった学内外の先生方、岩手大学職員の皆様をはじめとする多くの方々のおかげであります。本当に感謝申し上げます。今後、更なる躍進を目指して「第2回」を開催したいと思いますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

文責 稲垣大助